

政治の現場

野党再編

3

# 民主第3世代に派閥色

首相らを「第1世代」、その後に中枢を担った野田佳彦前首相や前原誠司元代表らへ

首林や前原謙吉（元竹林山）衆を「第2世代」と位置づける。

自民黨の海江田万里作議院議員懇談会で続投を表明した7月31日夜、都内のホテルのバーに細野豪志前幹事長、馬淵澄夫選挙対策委員長、長島昭久元防衛副大臣が顔をそろえた。

終わつたが、馬淵がグラスを手に「自分がいつでも代表に就くといつ当事者意識を持つべきだ。順番待ちは臣くない」と語るが、細野はうなずき、「第3世代の自分たちが頑張らなきゃいけない」と応じた。長島も「覚悟を持たないと生きない」と同調した。

細野 長島、馬淵はいすれも2000年代に政界入りし、当選4～5回。党の「世代交代」を旗印に、自らを「第3世代」と名乗る。党を創設した鳩山由紀夫、菅直人両元

「な人間関係」を組み入れ、トップの決断に組織が従う文化を植え付ける」ことを狙う。8月4日、細野は静岡県三島

島市での街頭演説で「自民党には批判もあるが、最後は決めた」ことを全員で守る。大いに参考になる。グループを作ったのも民主党のやり方ではダメだと感じたからだ」と力説した。

しかし、派閥化への抵抗感は強く、共感は広がらない。細野グループからは小川淳也、泉健太、辻元清美の名衆院議員が去った。

「細野君は将来、党をしようと目をかけている。馬淵は最近、細野にこう忠告した。「執行部と反執行部の両方にいい顔をする」「ウチには公用を失う」といふとの見方がある。輿石も「細野君は将来、党をしようといかなきゃならん人間だ」と目をかけていた。

結果は、力不足の分野と引き換えにリーダーの求心力を保つ自民党の派閥政治をえ踏襲しようとしている。「党公認」に月20万円。未公認には10万円」。5月からは落選中の前議員に活動資金を配り始めた。原資はグループの政治資金。パーイーで集めた約7000万円だ。

は、「八方美人」との評もつ  
きまとつ。出世街道を走ってきた細野は、  
昨年の参院選大敗後、幹事長を辞任した細野は、日本維新の会や結いの党幹部らと会合を重ね、野党再編の旗手となりされてきた。一方で、執行部を支える実力者の奥石東参院副議長の顔色をうかがって

ソラの「信頼を失ふ」こと。ソラ童話では、「ウチ  
リが鳥と獸の両方に仲間として振る舞い、最後は双方から見放された。統一感のない「寄り合い所帯」と批判されてしまつた民主党再生の先頭に立つことは、その立ち位置をはつめさせることだが、必ず求められる。

## グループ若手が原動力

民主党内のグループ結成は、世代交代を目指す若手・中堅議員の台頭が原動力となってきた。

孝弘ら「党の顔」に対抗し、若手の候補擁立を目指す形で結成された。

年2月、長島が会長に就き、派閥化した。名称には国の軸を定めるという思いを込めた。長島は憲法改正に前向きな保守派の論客として知られ、外交・安全保障政策を結集軸にした野党再編を目指している。

グループ 若手が原動力  
来を誓い、約15人のメンバーを確保した。  
約10人の「国軸の会」は今